

## ハワイ大学研修

長崎医療センター1年次研修医 糸瀬 磨

9月17日～21日にかけてハワイ大学ジョン・A・バーンス医学部の Sim Tiki シミュレーションセンターにて行われた Resident Physician Course へ参加させていただきましたのでご報告いたします。研修へ参加したのは長崎大学病院や長崎県内の医療施設に勤務する1年次研修医5名、2年次研修医7名、引率指導医2名の計14名の一団でした。長崎県からのこの研修コースへの参加は今年で3回目です。今年から就航した福岡国際空港からの直行便にて常夏の島ハワイはホノルルへ。宿泊したホテルはワイキキビーチのすぐそばで、シミュレーションセンターはホテルから車で10分ほどのところにありました。研修は主にシミュレーターを使って行われました。ERでの対応、夜間オンコール対応、救急対応チームというシチュエーションを設定しシミュレーションを行いました。喘息重責発作や急性心筋梗塞の症例など、めまぐるしく変化していく患者状態を、シミュレーターでリアルに表現されていました。覚せい剤の過剰内服による心停止の症例などアメリカならではの社会的背景を反映した症例があったのも新鮮でした。

急変患者へ複数のスタッフで対応するという場面を通じて、失敗を繰り返しながらも参加したメンバーの間に次第にチームメンバー間でのコミュニケーションの大切さが意識されるようになり、チームワークが育まれていったことは感動的でした。

今回の研修での体験は知識や手技面のだけではなく、現地の病院を見学するセッションもありました。実際に海外の実際の医療施設を見たり、医療教育に触れることによって、海外での医療活動への興味を非常に掻き立てられました。この研修への参加が将来海外留学等へのきっかけになるかもしれません。

また、今回の参加者は全員が将来長崎県内の医療機関での勤務を予定している医師であり、同世代の医師たちと交流を深め、情報交換できたことも大きな収穫でした。

この研修は来年も開催予定ということですので、参加するチャンスのある方々は是非来年の参加を検討されてみてはいかがでしょうか。

今回の研修を企画し引率指導して下さった関係者の方々、費用的な面でのサポートをしていただいた新鳴滝塾の皆様、そして研修への参加を快く快諾して下さった長崎医療センターの関係職員の皆様に心より感謝を申し上げます。



研修に参加した男性陣で Sim Tiki center の正面玄関にて

## 研修一日目

到着当日、翌日は研修はなくハワイを満喫してきました。

今日からいよいよ五日間の研修が始まります。参加したメンバーとは二日間ゆっくりと交流する時間があったので非常にスムーズに研修に入っていたと思います。

今日の午前中は主にイントロダクションで、自己紹介やコースの説明などがありました。

午後からは早速シミュレーターを駆使しての実践形式のトレーニングを行いました。シミュレーターは様々なケースがプログラムされており、なされた一つ一つの行為に対して一つ一つ反応があり、我々初期研修医にとっては非常に適当なトレーニングマシンであると思いました。日本の研修病院にあのレベルのマシンはあるのかな？どのチームも初めてのシミュレーターを使った、しかも半分は英会話でのシミュレーションということもあり、思ったようにやりたいことができなかつたようでした。

各チームのシミュレーションの後には講師の先生からのフィードバックと質疑応答の時間が設けられていました。質疑応答の時間は非常に充実しており、参加者がそれぞれ気になったことについて活発に質問し、トレーナーの先生も快く答えてくださいました。夜のミーティングでも昼の良い流れのまま、活発なディスカッションがなされていました。

今日は、誰となく自然と手を上げて発表したり質問したりするという良い雰囲気を作れたことがこの研修プログラムにとって大きな収穫であったと思います。明日からも盛り上げて、例年では到達できなかったレベルまで到達できればと思います。

## 研修二日目

午前中はシミュレーターを使った気管挿管のトレーニングをひたすら行いました。また、空き時間にもシミュレーターを使わせてもらい、腹腔鏡のシミュレーターではラパコレを一例通しでやりました。

午後のシミュレーショントレーニングでは、一日目の失敗を生かして色々とイメージトレーニングして準備してきましたが、シミュレーションの内容も一日目よりアップしており思い通りには行きませんでした。

シミュレーションリーダー役をやった時は、やるべきことがわからなくてオロオロしたり、助手役をやった時には、あれもこれもやろうとしてバタバタしたり、自分の役割に徹せない部分がありました。実際日常の臨床の中でもやらなければなりたくないこととやってみたいことを混同して、周囲のスタッフに迷惑をかけているんだろうと反省させられました。

チーム医療ではメンバー同士が密にコミュニケーションをとること、自分の役割と限界を把握することが大切だということを再認識しました。

## 研修三日目

ハワイ研修も三日目となりました。三日目の研修はこの研修を通じて最も印象に残るシミュレーショントレーニングがありました。それは午後に行われた Medical Crisis Team Training のセッションです。院内で急変した患者の対応を院内救急対応専門に組織されたチームで対応するというトレーニングでした。このセッションでの症例はいずれも超重症患者で、心肺蘇生など多くの人手が必要でよりチームワークが求められました。チーム長崎の団結力をフルに発揮し今までで最高の対応が出来たのではないかと感じております。シナリオ上最後の症例では患者が亡くなってしまいましたが、本当に患者を亡くしてしまったかのような気持ちになったのは、皆が本気でシミュレーションに取り組んでいたからではないかと思っています。

#### 研修四日目

今日は朝 Tripler Hospital へ見学へ。アメリカの病院は大きくて、広くて、綺麗という話は以前から耳にしていますが、Tripler Hospital はそのイメージ通りの病院でした。

カンファ室は綺麗でスタイリッシュなデザインだし、レジデントの教育システムもしっかりと確立されており、若いドクターにとっては働きながらスキルアップするには最高の場所だと思いました。

病院で働いていた風格からはレジデントだと思われた女性が、医学部の学生だと知った時には驚きました。さすがアメリカ！と驚くことばかりでした。実際に働いてみなければわからないことも多いとは思いますが。

午後は再びシミュレーショントレーニング。シミュレーションにもだいぶ慣れてはきましたが、学びたいことはまだまだたくさんあるのが心残りです。しかし心残りがあるからこそ、また学びたいという気持ちにもなれます。日本に帰ってからも継続してトレーニングしていきたいと思います。

ハワイも6日目で英語にも大分耳がなれてきました。これを期に英語ももっと学んでいかなければと再認識しました。

#### 研修五日目。

この日はCVカテーテルのスキルトレーニングが午前中にあり、午後からはピッツバーグの病院で家庭医のレジデントとして勤務している日本人の林先生のskypeでの講義がありました。林先生はなんと鹿児島大学のご卒業ということで、なんと僕の直接の先輩でした。そのこともあってか質疑応答では積極的に質問をし、ローカルな話も含めたいへん盛り上がりました。自分の先輩が世界を股にかけ活躍していることがたいへん誇らしく、また世界の狭さを感じた瞬間でありました。